

2 学校運営に関するご意見・ご提言等

区分	委員	ご意見・ご質問の内容	学校からの回答
臨地実習関係（新型コロナウイルス関係）	稲井委員	<p>コロナ禍の中で臨地実習が制限され、学内での演習やロールプレイ、シミュレーションの活用など、教育方法を工夫されており、素晴らしいと思います。</p>	<p>コロナ禍における臨地実習につきましては、実習施設の皆様の御協力により、できる限り受け入れていただいております。大変感謝いたしております。</p>
	安井委員	<p>市民病院では、貴校の第二看護学科の実習を受け入れております。コロナ禍で十分な実習受け入れが難しい状況ですが、可能な限り実習受け入れができるよう対応してまいりたいと考えております。このため、実習前の検査による陰性確認など、引き続き教職員ならびに学生の皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>また、一部の学生の方々には、当院で准看護師または看護補助者としてご勤務いただいております。これも、実習を通じて当院の看護業務に魅力を感じていただいている成果であると自負するとともに、貴校のご理解、ご協力の賜物と感謝しております。</p> <p>今後とも、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>感染拡大により臨地へ行けない際は、校内実習において、実践力を身につけることができるよう、ハイブリットシミュレーターを活用するだけでなく、紙上事例に動画やモデル人形・シミュレーターを組み合わせたリ、リモートで臨地と繋いだりと、できる限りリアルをイメージし、臨場感のある効果的な学習内容となるよう工夫をしています。</p> <p>今後とも、引き続き、様々な工夫により、学習の質の維持に努めてまいります。</p>
	森口委員	<p>コロナ禍による臨地実習の制限等により、様々な臨床現場を体験する機会が十分確保できない状況が続いていることから、学生が具体的な就労イメージを持てるよう、学習指導内容に工夫いただき、県内定着率の向上への取組みをお願いしたい。</p>	
	奥田委員	<p>実習施設が非常に多く、施設ごとの対応や学生の配置等、先生方のご苦勞が大きいことと思います。</p> <p>施設によってコロナ対応が異なり、学生間で実習内容に差が生じた場合には、どのようにフォローされているのでしょうか。もし、工夫されている点がありましたら、お教えてください。</p>	<p>御指摘の通り、感染拡大の状況や実習施設の状況により、学生によって実習経験に差が生じてしまいます。</p> <p>このため、学生間での学びの発表会や全クラスメート参加のオンラインミーティング、実習先のオンライン協力を得たカンファレンスの実施等による学びの共有の実施、臨地実習場面を想起したロールプレイングやモデル人形等を活用した臨地で実施可能な看護技術の校内練習の実施などにより、学生間に差が生じない様に工夫しています。</p>
教育方針	稲井委員	<p>昨年度の新人離職率は、前年度より大幅に上昇しています。施設側も新人教育には力を入れており、技術面では経験を積むことでカバーできますが、「看護観」等の看護職としての心構えについて、しっかりと教えていただきたいと思っております。</p>	<p>これまで、低学年から、【看護観】について考えたレポートを作成して発表する機会を設けたり、卒業生を講師として招き、働きがいや学生時代に取り組んでおくべき事などのアドバイスをもらう機会を設けるなど、卒業後の進路について意識させる取組を行っています。</p>
	森口委員	<p>留年者・休学者等、指導に配慮が必要な学生も一定数いることから、教員間の連携を図り、より丁寧な指導・支援のもとに、全員が所定の課程を修了し卒業できるようご尽力いただきたい。</p>	<p>今後も引き続き、教員間の連携を図りながら、丁寧な指導を心掛けてまいります。</p>

区分	類名	ご意見・ご質問の内容	学校からの回答
学生の状況等について	葉久委員	<p>参考資料の学生異動状況では、毎年退学者や休学者が出ておりますが、その要因は検討されておりますでしょうか？</p> <p>家庭の事情などもあるかと思いますが、メンタルヘルスの要因はいかがでしょうか？</p> <p>学生のメンタルヘルス相談窓口などの受診件数などご教示いただければと思います。</p> <p>就職後に、体調を崩される方もおられますのでよろしくお願いします。</p>	<p>退学・休学の要因は、家庭環境の変化や経済的な事情、学力・技術の未修得、進路の変更など様々であり、その中には、メンタルに起因した体調不良等が主要因の場合もあります。</p> <p>毎年度早い時期に、全ての新生は個別に、スクールカウンセラーとの顔合わせ（ヒアリング）を行っており、精神的な問題を抱えている学生が、スクールカウンセラーのカウンセリングを活用しやすくとともに、学生の状況を把握することとしています。</p> <p>また、学生に対しては、抱え込まずに、適宜、カウンセリングを受けることを勧めており、教員は、スクールカウンセラーと連絡を密にし、指導等についての助言をいただきながら、学生に対して必要な対応をしています。</p> <p>なお、令和3年度の相談実績は、14件となっています。</p>